

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4771500040		
法人名	有限会社 かるすと		
事業所名	グループホームもとぶ		
所在地	沖縄県国頭郡本部町豊原262番地1		
自己評価作成日	令和元年11月25日	評価結果市町村受理日	令和2年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=4791500020-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和元年	12月25日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた当事業所は見晴らしがよく遠くは八重岳、瀬底島が望め、室内は木目を多く使い、明るく暖かな落ち着いた環境の中で入居者様と裏庭で小さいながらも育てた野菜を収穫したり、海を眺め日光浴を行い、天気の良い日はドライブがてら入居者様と買い物や近くの公園へ出かけたり、季節の変わり目などは自宅に行き衣替えを行い、旧正月や旧盆などは自宅に向いたり、恵まれた環境で日々落ち着いて過ごしていただけるよう1人1人のペースを大切に家庭的で楽しく安心して生活できるように支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年が経過した当事業所は、閑静な集落にあり、同敷地内のグループホームと連携し、利用者同士が日常的にふれ合い、運営推進会議や災害訓練の他、地域との交流も一体となって取り組んでいる。外出支援については、日常的に散歩や買い物等に出かける他、定期的に区行事や活動に利用者も参加し、馴染みの人との交流を継続するとともに利用者からの要望にもその都度対応し、ドライブや外食、季節の花見等、多様な機会を設け、充実した外出支援を行っている。食事は、3食事業所で調理し、利用者の希望を反映して刺身等も献立に取り入れ、職員も一緒に和やかな雰囲気の下、食事を楽しめるよう支援している。今年度は、消防署と連携した定期的な消防避難訓練を実施する他、職員8名が消防署内で普通救命講習を受講し、運営推進会議にも消防署職員を招いて、救急搬送や災害対策等についての情報交換や助言を得る等、安全管理への取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年2月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を施設内に掲示している。また名刺の裏にも記載している。半年に1度ミーティングで取り上げ全職員に地域密着型サービスの意義の周知を計り、地域に出かけるなど、地域との関わりを継続できるように支援している。	理念は、職員が意識し実践できるよう掲示をし、名刺にも記載して定期的に職員会議で確認し共有している。理念の「地域との関わり」や「利用者の安定した生活の支援」の実現のため、積極的に利用者や地域の行事や活動に参加し、「介護について」の職員アンケートや接遇研修を実施している。今年度は、管理者が変わり、開設時に作成した理念の再考を今後の課題としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町主催の敬老会参、字の公民館主催『キッチンとうばる』『体操教室』に参加している。また地域青年団によるエイサーや民謡愛好会の方々や小学生の慰問を受け入れている。	自治会に加入し、毎月開催の「キッチンとうばる」や敬老会等に利用者や参加している。日常的に近隣を散歩し、散歩先の庭を見学したり、シーカーサー等をもらうなど地域住民との交流もある。自治会長や住民に運営推進委員を依頼し、地域の青年団によるエイサーや各種ボランティアの訪問を受けている。管理者が、認知症サポーター養成講座の講師を務めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトがスタッフにいるため地域の公民館でサポーター養成講座を開催している。町主催の福祉祭りに入居者の作品を出展したり、認知症のパンフレットを配布して認知症に対する理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況、行事、ヒヤリハット、避難訓練、外部評価など取り組み状況を報告し意見をもらったものを、ミーティング時で職員間で話し合いサービスに活かしている。また参加できない家族に対して議事録をに送付し報告している。	会議は、法人内の事業所と合同で年6回定期的に開催し、行政や利用者、知見者は毎回参加しているが、家族や地域代表者は不定期の参加となっている。会議では、事故や活動状況等を報告し、委員と意見や情報交換を行っている。前回の外部評価での提案を受け、8月に消防署員が会議に参加し、防災の助言を受けている。議事録や外部評価結果は公表している。	運営推進会議への家族や地域代表者の参加に向けた工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括職員や福祉課職員へ相談や情報交換などを行い連携を深めている。役場担当者から新規利用者の相談があったり、認知症カフェについて他市町村の情報を頂いたり、SOSネットワークでの連携を図り協力関係を築いている。もとぶた会議に参加している。	行政とは、運営推進会議やもとぶた会議、利用者と一緒に、各種申請や更新手続き等で窓口を訪問し、情報交換をしている。行政主催の高齢者虐待防止研修や認知症カフェへ参加し、認知症高齢者SOSネットワークに加入している。地域高齢者の緊急避難時の受け入れや認知症サポーター養成講座の講師を引き受ける等、協力関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年2月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し職員ミーティングで研修を行い身体拘束での弊害を職員に伝え共通認識をとれるようにしている。運営推進会議で身体拘束等の適正化の為の対策検討会を開催し報告相談している。	身体的拘束等適正化の指針を整備し、運営推進会議において適正化のための対策検討委員会を開催し、議事録を整備し、職員ミーティングで周知している。定期的に身体拘束の研修や勉強会を実施している。事業所は、職員間のコミュニケーションを図り、「利用者を待たせない」や「就寝時はベッドの高さを最下部にする」等話し合い、拘束しないケアを実践している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修を行い身体拘束での弊害を職員が理解し日中は出入りは自由に行えるようにしている、1人で出た際は安全に配慮し必ず職員が付き添いを行っている。	高齢者虐待防止マニュアルを整備し、定期的に「身体拘束と虐待防止」の研修参加や事業所内勉強会を実施し、虐待発見時の通告義務や対応等、職員に周知している。管理者は職員の出勤時は体調等確認し、不良の場合は勤務調整を行う等配慮している。職員による不適切なケアや言葉遣いが気になる時は、管理者が注意を促し、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者はいないが、役所にて制度についてアドバイスをいただいたり情報を交換したりしている。役場で行っている勉強会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書と重要事項説明書を読み合わせを行って説明している。質問や不安に思っていることなどに答えながら理解と同意を頂き契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には意思、希望の確認、家族は面会時や運営推進会議などで意見や要望を聞くようにしている。職員や代表者と検討し運営に活かしている。	管理者は、利用者の意見や要望は日頃の関わりの中で聞き、「服やクリームを買いたい」の要望は、個別ケアで対応し、「寿司が食べたい」には、ランチ会の開催時に計画している。家族からは、面会時やメール、電話等で聞き、「夜間は事業所周辺が暗い」や「最近では交通量が増え、危険」との声に、事業所にセンサーライトを設置したり、道路等に表示板を設置する等対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年2月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や日中のミニミーティング毎月のミーティング時に職員から出た意見提案を生かせる様に職員で共有検討を行い運営に反映させている。	職員の意見や提案は、日々の申し送りや毎月開催の職員ミーティング、個別面談等で聞いている。職員からの「効率的な業務遂行に向けて、遅番の人員配置の変更」や「利用者の安全性に配慮し、車椅子の購入」の提案に対応している。「ヨガやレク研修に参加したい」等の要望にも対応し、利用者の機能訓練や日中活動の充実に反映させている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の健康診断の実施や資格所得に向けて、時間的な支援や子育て中の職員には子供の発熱や体調不良時には早退したり休みを取るなど、職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則が整備され、労働条件等が規定されている。職員の健康診断は、勤務形態により年1回と2回行われている。有給休暇の取得や勤務シフトは、職員の希望を聞いて作成し、勤務表や給与明細で休暇の取得状況が確認できるようにしている。年1回、管理者による個別面談を実施し、新たな資格取得時は、法人に報告し、手当や昇給に反映させている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で勉強会を行ったり、研修や講演会などに積極的に参加し、ミーティング時に報告を行い全職員が学べるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他事業所の方に参加してもらったり、北部地区ケアマネ連絡会やもとぶた会議(町づくり会議)に参加し意見交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設見学と相談受付、入所後に面談を行いその方の生活状態を把握する様に努めご本人が求めていることや不安を理解することを心がけている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年2月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族も一緒に見学や他入居者とふれあい、どのように事業所で過ごしてもらいたいのか、緊急時の対応や不安・困っていること等を聞いて、安心して利用者を預けてもらえるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては他事業所のサービスを紹介するなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事、洗濯、掃除など入居者の得意なことを伺ったり、教えて頂きながら力を発揮していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や要望をご家族へ電話やメール、ラインなどでの連絡や面会に訪れた際に報告している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や店、行事に参加したり法事など出かけた場合はご家族へその旨を伝え、協力してもらったり、職員が同行し支援している。	利用者と馴染みの人や場との関係性は、本人や家族、親族や地域の人から聞いて把握している。出身地域の「キッチンとうばる」や「体操教室」に、職員と出かける利用者や友人の送迎で一緒に参加する利用者もいる。時折、友人等からの電話を受けたり、県外から友人が訪れ、交流している。家族の協力で馴染みの美容室やそば屋等へ出かけている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年2月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間での相性を見極め、会話を楽しめるように席決めを行い孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族が次のサービスに継げる支援をしたり、必要に応じての相談を受けフォローするなど、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に希望要望を本人と家族から聞き取りを行い、入所後も日常会話などから本人の暮らしの希望、要望を聞き、本人の意向を把握するように努めている。	利用者の殆どが会話ができ、利用者の思いや意向は、アセスメントの他、居室や入浴時等、利用者1対1になる時にゆっくりと話を聞き把握している。利用者からの「裁縫や手芸が得意」や「ドライブがしたい」、「家に帰りたい」等の声を介護計画に反映させ、編み物やクッションカバー作りやミニドライブ等対応されている。方言で話す利用者等把握が困難な場合は、家族や職員を介して把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に私の記録やジェノグラムを記入して頂き、友人、知人より話を伺い生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歩行状態、バイタル測定、食事摂取動作会話などを通して把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年2月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常会話の中から本人の希望や意向を聞き面会の折りに家族の希望や要望を聞き送りやミーティングでスタッフから意見を聞いている。	担当者会議には、利用者と家族が参加し、計画作成担当者が意向を確認して介護計画を作成している。毎月、職員ミーティングで利用者毎の支援状況を確認し、短期目標の支援内容に沿って3か月毎にモニタリングを実施している。介護計画の見直しは、認定更新時に行い、利用者の状態変化や新たなサービスの導入等、必要に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングでの報告や個人記録を活用し情報の共有を行っている、個別記録を通し介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々希望や意向本人の状態に合わせたケアを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内ドライブや、さくらまつり、など地域主催の催しに参加したり、八重岳ユリ祭り、オクラレルカなど花見の名所にドライブしたりと、利用者が楽しみながら暮らしていけるよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1度の訪問診療時、主治医に病状や不安などの状態の報告し適切な医療を受けられるように支援している。歯科や精神科、耳鼻科などは個別で受診している。	かかりつけ医の受診支援は、全利用者が希望で月1回の訪問診療を利用している。受診には管理者が立ち会い、結果を家族にメールやSNS(ライン)で報告している。専門医等他科受診は、家族対応としているが、困難時は事業所が送迎を行ない、病院で家族と待ち合わせて受診を支援している。特定健診は2名の受診があり、他の利用者も年1回の健康診査を受けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年2月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時は看護師に連絡し受診依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会へ行き、看護師や医師に話しを伺うようにしている日常生活や服薬・身体状況の報告を行っている。退院時のカンファレンスも出席している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や面会時に、家族と話し合いを行い終末期の希望を聞き取りを行っている。現在施設での看取りはない。	重度化や終末期に向けては、「重度化した場合における(看取り)指針」が明文化され、利用開始時に家族や利用者に説明し、書面で同意を得ている。利用者の状態変化時や年1回、家族の現在の思いを聞いているが、看取りの希望はなく、今後、家族の希望時は、対応を検討する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法など消防署で消防職員より講習を受けたり、定期的に施設において再確認を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に同法人施設とに避難訓練を行い、協力してもらっている。災害時に備え、備品なども点検し準備している。	災害対策については、災害時対応マニュアルが整備され、昼夜を想定した年2回の避難訓練を実施し、報告書も作成されている。訓練には、消防署や隣接の事業所が参加しているが、地域住民の参加は得られていない。防災設備の点検も年2回実施され、飲食料の備蓄も3日分確保されているが、保管場所等は職員への周知が不十分である。	災害発生時に利用者を安全に避難・誘導できるよう訓練に地域住民の参加に向けた工夫が望まれるとともに、災害に備え、備蓄リストを作成し、保管場所等も職員に周知することが望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年2月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導声かけや入浴などなるべく同性職員が行っている。ドアを閉めるカーテンを閉めるなどプライバシーの確保に努めている、普段の会話でも人生の先輩として話しかけをおこなっている。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保については、「プライバシー保護マニュアル」や個人情報保護方針、及び利用目的が整備され、重要事項説明書で利用の同意を得ているが、掲示は行われていない。排泄や入浴は、同性介助を基本としているが、シフト上異性介助になる場合は、同意を得て支援している。言葉かけも声の大きさや言葉遣い等の配慮がされている。	個人情報保護方針、及び利用目的については、事業所内に掲示することが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた気持ちで接し話やすい環境を作りひとり1人に合わせ自己決定ができる話しかけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が強制することなくその日の入居者のペースを大切にテレビを鑑賞したい方居室で休みたい方各々のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ娘と知人と出かけたり移動美容室に事業所に来てもらい、希望に合わせたカットや毛染めをしてもらうなどの支援を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや準備ができる方は職員と一緒に手伝ってもらいその人の力を発揮していただいている出来ない方にもテーブル拭きなどを手伝ってもらっている。利用者と職員と一緒に食事をして好みや調理法など話している。	食事は、3食とも事業所で調理している。献立は、法人から配達される食材を使っているが、利用者の希望を反映し、ソーメンチャンプルーやお刺身等も取り入れている。利用者の2~3人が食材の下拵えや食事の準備等をしている。職員も利用者と同気あいあいと同じ食事を摂っている。時折、移動パン屋で利用者の好きなパンを選び、おやつにしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年2月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みの飲み物食べ物を提供したり食事時間をその日の本人のペースに合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、声かけで行う方や歯ブラシやコップなどを準備すると行う方など、一人ひとりの力に応じた口腔ケアを支援している。訪問歯科で診てもらい治療している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり1人の排泄パターンを把握し日中は居室トイレや共同トイレにて排泄を行っている。オムツ対応の利用者も排泄の訴えがあった場合はできるだけトイレで排泄している。	排泄の自立支援については、利用者全員、日中はトイレで排泄している。何かに夢中になっている利用者には頃合いを見て声をかけ、訴えのない利用者には毎食前後に声掛けし、トイレへ案内している。夜間は、希望や身体状況によって、ポータブルトイレやオムツ対応の利用者もいる。排泄の自立に向けて、ストレッチやスクワット等の失禁予防体操を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩を行ったり、便秘予防体操を行っている。水分摂取うながし、ヨーグルト、牛乳の提供や野菜などの繊維食提供を行っている。便秘が続くようなら主治医に相談している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助はできるだけ同姓介助で行っている。入浴時に懐メロや民謡を流したり、本人の希望で曜日を変えたり時間をずらしたり個人の希望を取り入れている。	入浴は、週3回、同性介助を基本に支援しているが、利用者の希望があればいつでも対応している。入浴拒否がある場合は、無理強いせず、職員を変えたり、時間を置いて声掛けする等工夫し、支援している。利用者個人個人の好きな音楽を把握し、ユーチューブで曲を流して楽しく入浴できるように支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年2月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が休みたい時に休息され入居者の生活リズムを大切にしている使い慣れた寝具を使ってもらい気持ちよく眠れるよう支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別日誌に薬情報をファイルし職員が把握できるようにしている薬の変更があった場合はラインやメールで周知している。	服薬支援については、前日の夜勤者が当日の3回分をセットし、朝食時は早番と夜勤者、昼食時はリーダーと日勤者、夕食時は夜勤者と遅番で服薬のチェックを2人体制で行なっている。7月に薬の飲み忘れや落薬があったが、検討会議後は誤薬事故は発生していない。服薬支援マニュアルが作成されていない。	安全な服薬支援に向けて、服薬支援マニュアルを作成し、職員への周知が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや洗濯干し、お茶葉の袋づめや野菜のカット、チラシでのゴミ袋づくりなど個人の特技を活かし役割を持っていただいている、また、散歩や買い物外出、ドライブや民謡ボランティアの慰問など楽しみの時間を支援している。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に職員が役場や買い物する際は入居者にも声をかけ外出支援をおこなっている、本人の希望があれば家族、職員同行で外出できる体制をとっている。	利用者は、日常的に事業所周辺を散歩し、定期的に区行事等に出かけている。利用者からの「出かけたたい」等の希望に応え、毎月ミニドライブ等の外出を支援している。利用者や家族との交流会を回らずし店で開催し、利用者全員が参加して季節の花見等に出かけている。個別には、管理者と介護保険更新時等の手続きのため、利用者3人については役場への外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者が金銭管理が難しい為家族や職員が管理している、希望があれば職員が買い物に付き添い支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年2月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者が連絡を取りたい時に自由に電話を使用できるように支援している。ご家族にも入居契約の際本人の希望があれば電話を行う旨を伝えている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入れ替え時に外気温との気温差が変わらないように注意しその際に不快でないかの確認を行っている。また音に敏感な方にはなるべく大きな音を立てないように配慮している。昔ながらのカバンギー(防虫効果のある草)をつるし居心地の良い空間づくりに努めている。	事業所入口周辺や裏庭には、季節の花や野菜が植えてあり、玄関には出入り時の休憩ができるようソファが設置され、昔懐かしい雑貨や季節の飾りが施されている。テレビの音も配慮され、トイレや浴室等の排水溝にEM液を使用し、防臭に努めている。浴室の脱衣所には、EM液を入れたペットボトルが床に置いてあり、利用者が触れない場所への収納が望まれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士がお互いの部屋へ行き来したり、楽しくゆっくり会話が出来るようにお茶やお菓子を用意している。また1人になりたいと感じさせる場合は必要以上に深追いせず、入居者のペースに沿うように心がけている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や飾り物など本人の好みやご家族から本人が使い慣れた物を持ってきていただき本人主導で配置を行っている。掃除で居室に入居する際配置が変わらないよう注意をしている。	利用者は、自宅で使い慣れた家具等を持ち込み、好きな場所に配置し、壁や棚には、家族の写真や利用者自身の作品等を飾り、時計やカレンダーも設置されている。居室の洗面台で洗濯をする利用者の部屋には、窓から直接外に干せるような位置に物干し台が設置されている。廊下の明かりを気にする利用者には、ドアのすりガラス部分にカバーをする等の配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやシャワー室の場所、入浴中と明記している。居室入り口に利用者の名前を張り出し自分の部屋が一目でわかるようにしている、ベッドの高さや位置等もその人にあわせ調整している。		